

## ことばを育てるヒント … 「同じと違い」

今回は「同じと違い」について考えてみたいと思います。

発達の順では「同じがわかる」が先で、「違いがわかる」のはそのあとです。例えば、パトカーと救急車は同じ「働くのりもの」ですが、その用途は異なります。また、りんごとトマトは「赤くて丸い食べ物」ですが、「果物」と「野菜」といった違いがあります。発達の過程でりんごを「トマト」と言うこともあると思いますが、しばらくすると違いに気付く、いつのまにか「リンゴ」と言えるようになっていきます。もしりんごを「トマト」と言っても、言い直しはせず、「りんごね。」といったさりげない声かけをお願いします。

【あそび】カードあそび

- ① 同じ：見本のカードを見ながら、野菜・果物・動物・乗り物など、同じカテゴリーのカードを探して置いていきます。
- ② 違い：上記①から今度は「赤くて丸い果物はどれ？」、「首が長い動物はどれ？」など、違いを意識した問題を聞いて、子どもがカードを取り名称を言います。慣れたら、子どもが問題を出すことも出来ると思います。

## ～乳幼児期の育ちを考える～

### 「自尊感情」を育てる食事

「食育」という言葉をご存じですか。食を通して子どもの成長発達を促していくのですが、この成長発達には、“何でも食べて丈夫な身体を作る”事より大事な意味合いを持つものがあります。

『何を食べるかということも大切であるが、誰と一緒にどのような気持ちで食べたかという記憶も子どもの心の発達には大きな影響を及ぼす。だから「楽しく食べること」は食育においてとても大切である。』（平野直美 神戸女子短期大学教授）

家族全員で食卓を囲んだり、自分のために作ってくれたお弁当がある。栄養や味の問題ではなく、愛情あふれた食文化が子どもの心に響き、人にとって大切な自尊感情へと育っていくのです。

食べないと命は持続できません。しかし「居場所」があって初めて「食べて健やかに生きる価値」を自分に見出すんですね。

食べるという行為に多様な意味がある事を感じてもらえれば嬉しいです。

「孤食」が大きな問題と言われて久しいですね。特に子どもは自尊感情、生に関わる大きな問題です。貧困問題も絡み「子ども食堂」が少しずつ広がっています。ただ食べ物を受け取るのではなく、誰かと「一緒に食べたならおいしい」を味わうんですね。

給食でもそれが叶います。保育園(所)、幼稚園、子ども園や学校に自分の居場所がある。それを誰もが実感できているようにと願います。

幼児教育センターは、就学前から小学校教育へつなぎます  
夢と希望もてる たからっこを  
応援します！

宝塚市教育委員会 幼児教育センター  
〒665-8665 宝塚市東洋町1-1  
電話 0797-71-1141(市役所)  
0797-77-2132(直通)  
FAX 0797-71-1891  
E-mail m-takarazuka0289@city.takarazuka.lg.jp



★ 発達、就園・就学等の相談がありましたら、上記にご連絡ください。